

日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）

管理運営課管理運営係 主任 石丸 正
公益財団法人仙台市市民文化事業団 総務課 主事 佐藤 剛彦

主催事業「日立システムズホール仙台 パフォーマンスフェスティバル」を開催して

大規模改修工事が令和3年8月末で完了し、準備期間を経て10月1日からホールが再オープンしました。約1年間の休館中に新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況も少しずつ変化し、国内でもさまざまな催事が少しずつ再開している中での再オープンとなりました。他館の状況を確認、参考にしつつのコロナ対策となりましたが、コロナと上手に付き合いながら、文化芸術を楽しむ姿を見る機会が少しずつ増えてきたと実感しております。

そのような中、今年2月26日、27日の2日間にわたって当館主催の全館利用イベント「日立システムズホール仙台 パフォーマンスフェスティバル」を開催しました。当初は令和2年に開催の予定でしたが、コロナの影響により、一度は開催を断念し、大規模改修工事を経て改めての開催となりました。

このイベントは、「全館を利用する規模で、かつ施設の機能特性を存分にPRできるような主催事業を」という目的をもって企画しました。イベントの企画開催や新型コロナウイルス感染症への対応を考えつつのプログラム検討を通して、「公設の団体・施設である、私たちのやるべき事業とは何なのか」という課題にも改めて向き合うことになりました。

企画の趣旨として、

- ・ 「縁日」をイメージした、館内全体がにぎやかになるようなイベント
- ・ 日頃からの利用団体はじめ、初めての方にも垣根なく、さまざまな人々が和やかに集う光景や、そこから発する熱気を感じるようなイベント

という二つを掲げ、開催の準備を進めました。特定の芸術分野の振興を目的とはせず、クラシック音楽、合唱、演劇、ダンス、寄席、造形展示、公募者による自由演技のステージやワークショップなど、ジャンルを問わない様々なプログラムを用意しました。

長引くコロナの影響もあり、企画全体を通して高校生以下の子どもたちの出演が叶わなくなったり、公演の一部が中止、「縁日」をイメージした屋台の出店や飲食の提供ができなかったりと、規模や内容に色々と変化がでる形になりましたが、資金調達にクラウドファンディングを利用するなどの新たな試みにも挑戦することができました。

結果として約3,000人のお客様にご来場いただくことができましたが、たくさんの方々にご来場いただいたこと以上に、様々なジャンルの表現者が、ホールのいたるところで生き活きとライブし、それを和やかに楽しんでくれるお客さまが居る光景を見られたことや、館内

全体に一体感を感じることができたことが、「現場で体感する」実演芸術の良さが現れた瞬間であり、今回一番の成果と考えております。

コロナウイルスで表現者の活動の場は大きく減りましたが、活動の場や表現の場を求めていることは今回のイベントを通じてとても強く感じました。また、文化芸術に生で触れたいという方々がたくさんいることも改めて確認できました。一方で、コロナがきっかけでインターネットを活用したオンライン配信が盛んに行われるようになり、来館が難しい方々にも気軽に体感していただける選択肢が増え、文化芸術へのすそ野は広がったのではとも感じています。

新しい技術も取り入れながら、様々な形で表現者たちが輝ける場と、鑑賞者が楽しむ機会の両輪を整え応えることが、私たち公設の団体であり劇場を管理する者のやるべきことだと考えております。運営予算の減少や、施設や設備の老朽化など様々な問題を抱えてはいますが、地域に根差した企画やイベントを行いながら、これからも運営に取り組んでいきたいと思っております。